

Family building by gay couple: from feminist perspectives.

ゲイカップルによる家族形成について: フェミニストの視点から

Interviewee

Dr. Susan Hawthorne

Q. 専門分野やこれまでのキャリアについて簡単に教えてください。

詩人、小説家、出版人、学者、政治評論家として活動している。2002年にメルボルン大学で政治学と女性学の博士号を取得し、現在、タウンズビルにあるジェームズ・クック大学の非常勤教授をしている。

約50年にわたりフェミニズム運動に携わってきた。主な活動分野は、フェミニズム理論、レズビアン理論、反レイプ理論。レズビアン活動家グループの委員でもある。また、スピニフェックス出版社の取締役兼出版人であり、国際的なフェミニスト出版の専門家でもある。

ARTに関する著作は多くないが、2019年に出版された論文『Questions of Power and Rights in Surrogacy』で代理出産の話題に触れている。また、著書『Vortex』でも、代理出産について書いている。

Q. レズビアンによる家族形成について、ご存知の範囲内で教えてください。

自分が女性運動に参加した当初、結婚制度を完全に廃止するために戦っていた。レズビアンが結婚する権利を求めるとは真逆だ。すでに母親になっていて、その後、レズビアンの生活に子供を持ち込んだ女性もいたが、その当時から

みたら、レズビアンの家族形成は大きく変わった。自分はこの分野の専門家ではないので、自分の見識のほとんどは逸話的なものだ。

レズビアンは良い母親になる。一つの利点は、母親が二人いること。多くの場合、異性愛者の女性は子供と夫の両方の面倒を見なければならない。例えば、『助けて、私は(男性ではなく)男の子と暮らしています』という本が書かれているほどだ。母親が二人いることは子供にとって大きな利点になる。

最近、レズビアンの家族形成に関する話題が急浮上している。すでにレズビアンであると自認している女性たちが、母親になることを積極的に決意するようになったのだ。これを後押ししているのは、同性婚に関する法律改正である。これはおそらく、誰もが「すべてを手に入れる」ことを推進する一貫でもある。1970年代のフェミニズム運動が目指していたのは、このようなことではなかった(彼らは実際に社会を変えたかったのだ)。ソーシャルメディアやグローバルゼーションも関係している。

Q. ゲイカップルによる家族形成について、ご存知の範囲内で教えてください。

この分野に精通しているわけではない。また、ゲイ男性の世界に住んでいるわけでもなく、この分野に親しい友人がいるわけでもない。自分が知っていることのほとんどはテレビで見たことだ。

ゲイ男性が女性を搾取できるのは恐ろしいことだと思う。代理出産は危険だし、お金がすべてではない。自分のための妊娠と、誰かのための妊娠というのは、まったくの別物だ。

利他的な代理出産も同様に悪いことだと考えている。家族を破壊し、女性たちを感情のジェットコースターのように苦しめることすらある。代理母になった近親

者は、二度と口をきいてくれないかもしれない。『Broken Bonds』（邦訳タイトル『こわれた絆』）という本がある。このなかで、依頼者と代理母との関係は、代理出産後に崩壊した（その他にも、『Being and Being Bought』、『Women as Wombs』などが参考になる）。

業界全体を動かしているのは利益であり、これで大儲けしている悪徳業者がいる。

Q. 商業的な精子提供はレズビアンカップルの家族形成にどのような役割を果たしていますか？

ここでもまた、利益が関わっている。商業的な精子提供はレズビアンを医療化し、体外受精産業に資金を提供する。1970年代（エイズ以前）に精子提供を求めていた女性にとっては、大企業が関与することはなく、それは、うまくいくか、いかないかのどちらかであった。しかし、エイズの流行以来、レズビアンは、精子提供は危険で、スクリーニングが必要だと言われるようになった。しかし、異性愛者のカップルはスクリーニングをしないので、異性愛者の女性とレズビアンの女性には別のルールがある。全体として、これは商業主導であり、利益のために行われている。

Q. 商業的な代理出産は、ゲイカップルの家族形成に対してどのような役割を果たしていますか？

同性婚が導入されて以来、代理出産がますます増えている。このような動向に戸惑っている。父親になりたがっている一部の同性愛者や、大企業が得をする仕組みだ。

養子縁組にも問題がないとは考えていない。近年、養子縁組について広く読み、養子にとって問題があると考えてい

る。なぜ産みの母は私を手放したのだろうか？ お金が絡んでいたのだろうか？ 私の何が悪かったのだろうか？ そういった不安が養子の心に生じる。

オーストラリアでは歴史的に、養子縁組にまつわる深刻な問題が起こってきた。その結果、子供たちは長期にわたって大きな苦勞を強いられてきた。

養子縁組がなされるからにはきちんとした理由があるだろうが、代理出産の場合、子供（受精卵）はまさにその理由のためだけに女性の子宮に入れられる。多くの場合、実母は出産後、何の関係もない。依頼親が、代理母と子供の絆を望んでいないため、出産後すぐに子供は連れ去られる。産業化され、非常に問題が多い。そして、出産後の代理母の待遇は悪い。

こうした慣行の根底にあるのは、欲しいものはすべてお金で手に入れることができる、という私たちの生活の商業化である。このように、現代社会には境界も限界もない。代理出産は、この状況を象徴している。

Q. 精子提供を利用したレズビアンカップル/シングル女性にとって、精子ドナーはどのような存在でしょうか？ 精子ドナーとどのような関係を結んでいますか？

この分野の専門家ではないが、精子提供者が、提供後もレズビアンカップルと何らかのつながりを持ち続けている例を知っている。

一般的には、ドナーを利用したことを知られたくないというのが本音だろう。ゲイの場合はドナーを利用したことがもっとわかりやすいのだが、本当の意味でオープンに語られることはない。たとえドナーと依頼親が話しをしたとしても、両者の力関係が変わることはほとんどない。

レズビアン女性への匿名提供について初めて耳にしたとき、素晴らしいアイデアだと思ったが、その後考えが変わった。というのも、子供が成長すれば、自分の生い立ちやドナーが誰なのか、実際に知りたくなるからだ。ドナーが純粋に匿名であった場合、ドナーを知ることは不可能になってしまう。また、子供が血縁者と関係を持ってしまう危険性もある。人は自分の出自を知る必要がある。

Q. 代理出産を利用したゲイカップルにとって、卵子ドナーや代理母はどのような存在でしょうか。彼女らとはどのような関係を結んでいますか？

多くの代理母に話を聞いたわけではないが、同性愛者と異性愛者の依頼カップルの経験に大きな違いはないと考えている。

依頼カップルが海外に代理出産サービスを求めた場合は、代理母との間にまったく関係がない可能性が高い。その結果、紛争になったという報告は数多くある。代理出産は搾取だ。

Q. LGBTの家族形成において、テリングはどのように行われていますか？それはうまくいっていますか？

この分野には詳しくないが、「伝える」と「伝えない」ことの影響を比較して検証することは不可能だろう。

レズビアンのカップルの場合、子供に「伝えない」ことでまだ逃げられるかもしれない。早い段階で伝えることを選択するレズビアンやゲイのカップルにとって、それはある意味で政治的な決断かもしれない。彼/彼女らはまた、この情報を隠すことが困難につながる可能性があることも理解している。

Q. レズビアンカップルやゲイカップルに育てられた子供たちは、何か発言していますか？ どのようなことを言っていますか？

そのような子供の一人を知っているが、正式なインタビューは行っていない。この子はフェミニストとして育てられ、今では自信に満ちた若い女性になっている。

Q. ゲイカップルが代理出産で家族をつくることを権利擁護するグループが世界各地にあります。これらはどのような影響を及ぼしていますか？ 政治的に影響力がありますか？ アカデミックな世界ではどうでしょうか？

このような活動家は一般的にゲイ男性で、高収益企業を設立している。例えば、growingfamilies.org（実際は'.org'だが、'.com'とすべきである）のサム・エヴァリンガムやスティーブン・ペイジなどである。彼らはオーストラリアとイギリスで代理出産の商業化を提唱している。彼らにとって、代理出産は金儲けのためのマシーンなのだ。

子供とのつながりを持つために、自分自身が子供を持つ必要はないと考えている。おじさん・お婆さんの立場や、教職に就くなどして子供と関係を持つことが可能だから。ゲイの家族形成は、所有権と家父長的所有権に関わるものだ。それはグローバル化し、商業化している。

Q. ゲイカップルやシングルの男性が代理出産で子供を持つことがますます普及したとき、女性の立場はどのように変化しますか。

女性の位置づけに悪影響を与える。フェミニストたちは長年代理出産に反対しており、ヨーロッパやオーストラリアには代理出産廃止を主張するグループがある。代理出産に抵抗すべきだと考えている。この問題は女性の人生の根幹に関わ

るもので、人権侵害であり、女性にとっても子供にとっても悪いことだ。

Q. ケンブリッジ大学の研究グループが、LGBTの家族形成について数多くの調査研究を行っていますが、これらの研究はどのような影響を及ぼしていますか？

例えばウェルカム・トラストのような、このような研究に資金を提供する団体を問題視している。団体は資金提供する研究に特定の成果を求めている。その結果、研究者たちは資金提供者を満足させたいので、貧しい女性から搾取して家庭を築こうとするゲイを批判することはない。

「LGBTIQ」は問題のある略語だと考えている。TIQはLGBとはほとんど関係がない。学術研究は、急進的なフェミニズムの視点を採用していない。このことに対して、自分はシニカルである。これこそ、真に批判的な見方を採用していると自分は信じているし、採用すべき唯一の視点なのだ。

Q. 子宮移植や人工子宮に対するお考えをお聞かせください。

1988年のイタリア人医師の例を知っている。その試みは何度も惨めに失敗した。問題のひとつは、出産を産業化し、女性にも子供にも利益をもたらさない、成功しない技術であることだ。それは利益を上げるため。このことは、レナート・クラインの著書『代理出産』に書かれている通りだ。

このような技術は、特にトランス・コミュニティから強く求められている。生物学的な女性が移植を受けることすら、かなり困難であり、必要な身体的・ホルモンのシステムを有しない男性にとってはなおさらである。このような試みは身体が拒絶反応を示すか、最終的には失敗

するだろうと推測している。男性の身体は(女性とは)非常に異なっている。これはおそらく、好きなときに好きなように自分のアイデンティティを創造することができるという、「すべてを手に入れる」という考え方のもうひとつの反映なのだろう。

それが植民地化の一形態であると考え、著書『Vortex』にも書いている。女性の身体に対するこのようなアクセスは、女性の身体に対する家父長制的な植民地化の一部である。女性の身体の商業化、すなわち「女性植民地主義 (gynocolonialism)」である。

被植民者は植民地化を理解していることがほとんどだが、植民地化する側は理解していないことが多い。最後に女性の本を読んだのはいつかと男性に聞けば、たいていは小学校の頃に読んだ本だと答えるだろう(読書をすることで給料をもらうような職業に就いている場合は別だが)。もちろん、彼らは女性の生き方について真に理解することはない。植民地化という観点からこの問題を語ることは、フェミニストでない人々にとって、異なる考えや視点に心を開ききっかけとなり得る。しかし、グローバリゼーションについて語ることは、植民地化を批判することよりも人気があるようだ。

Q. これらの問題は今後どのようになりますか？

グラスゴーで開催されたフェミニスト会議から戻ったばかりで、そこでは代理出産について詳しく議論された。フェミニストたちは今、この問題をしっかりと理解している。問題は、その勢力が非常に不平等であること。資金不足のフェミニスト団体は、メディアにすぐにアクセスすることができず、フェミニストの声を発信するのに苦労している。

ヨーロッパには、なんとか声を届けようとしている重要な団体があるが、それは不平等な戦いだ。英国で代理出産の商業化が進めば、間違った方向にさらに一歩進むことになる。フェミニストたちは伝統的に強く反対してきたので、おそらく現在の保守政権はこれを阻止するだろう。フェミニストたちは右翼政党と手を組みたがらないが、この問題に関しては、両者とも代理出産には批判的だが、反対する理由は異なるので連帯は難しい。

お金が大きな役割を果たしている。ゲイの男性はより多くのお金を持っている。母親が2人いることが子供にとって良いことであるように、父親が2人いることで家族の収入が倍増する可能性が高い。女性2人の収入はそれほど多くないため、ゲイの家庭のダブルインカム収入は、レズビアンのカップルのそれよりも多い可能性がある。レズビアンの女性は異性愛者の女性より少し収入が多いかもしれないが、賃金の公平性がないことは確かだ。

(2023年11月)

Dr. Susan Hawthorne

2002年にメルボルン大学で修士号、政治学と女性学の博士号を取得。詩人、小説家、出版人、学者、政治評論家。

現在、タウンズビルにあるジェームズ・クック大学の非常勤教授として勤務している。また、Spinifex Pressのディレクター兼出版もしており、国際的なフェミニスト出版の専門家でもある。

論文

Susan Hawthorne 2019 Questions of Power and Rights in Surrogacy.

著書

Susan Hawthorne 2020 Vortex: The Crisis of Patriarchy. Spinifex Press.